

救急業務の実施状況

1 救急活動状況（前年比）

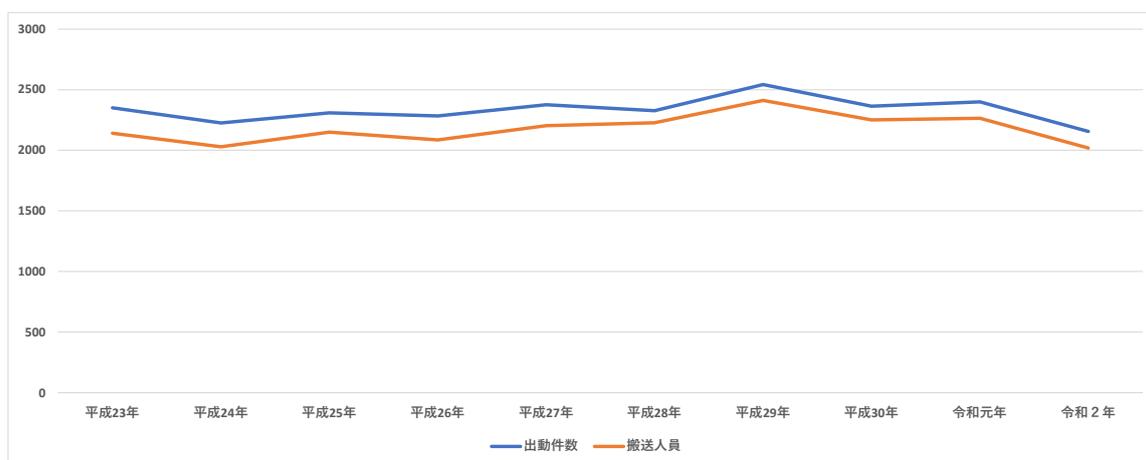
令和2年中における救急出動件数は2,156件（245件減）、搬送人員は2,019人（246人減）で、性別で見ると男性が1,109人〔55.0%〕、女性が910人〔45.0%〕となっています。

このうち、御坊医療圏内【美浜町・日高町・由良町・印南町・日高川町・御坊市〔管外〕】への救急出動件数は1,600件（139件減）、搬送人員は1,512人（139人減）であり、田辺医療圏内【みなべ町】への救急出動件数は556件（106件減）、搬送人員は507人（107人減）でした。

また、総救急出動件数2,156件に要した活動時間は延べ2,684時間、走行距離は延べ65,834.3kmで、救急隊による出動件数の内訳は、日高救急隊1,015件（71件減）、南部救急隊524件（88件減）、印南救急隊386件（60件減）、中津救急隊231件（26件減）の順となっています。

なお、救急救命士が行った特定行為は93件で、その状況については「6救急救命士の活動状況」のとおりです。

出動件数及び搬送人員の推移



- ※ 昭和58年10月1日から救急業務運用開始。
- ※ 昭和58年から平成2年9月30日までは管轄7町村、平成2年10月1日からは管轄10町村。
- ※ 平成16年10月1日、南部町・南部川村が町村合併によりみなべ町となり、管轄9町村。（管轄エリアの増減なし）
- ※ 平成17年5月1日、川辺町・中津村・美山村が町村合併により日高川町となり、龍神村が田辺市と合併し、管轄6町となるが、龍神村は田辺市との消防事務の委託により業務継続。（管轄エリアの増減なし）
- ※ 平成18年3月31日、田辺市との消防事務の委託期間が終了したため、管轄6町となる。（龍神出張所管轄エリア減）

2 救急活動の実態

(1) 救急出動件数の内容

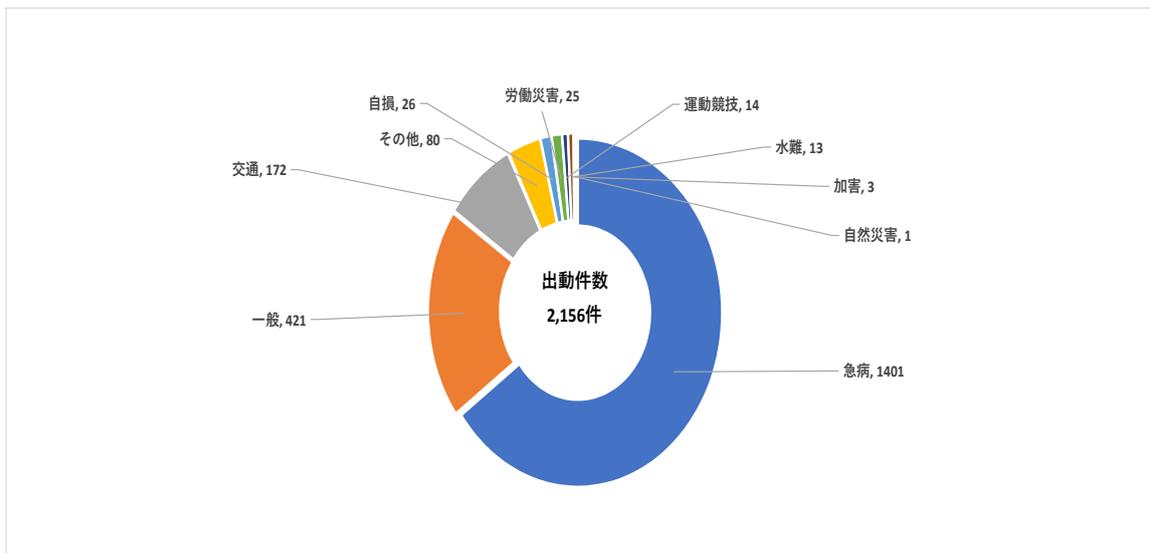
ア 事故種別（前年比） — 第1表

救急出動件数 2,156 件の事故種別をみると、急病 1,401 件（230 件減）、一般負傷 421 件（4 件増）、交通事故 172 件（8 件減）、その他 80 件（5 件減）、自損 26 件（7 件増）、労働災害 25 件（9 件減）、運動競技 14 件（9 件減）、水難事故 13 件（2 件増）、加害 3 件（2 件増）、自然災害 1 件（1 件増）、火災 0 件（増減なし）、の順となっています。

なお、急病〔65.0%〕、一般負傷〔19.5%〕及び交通事故〔7.9%〕で救急出動件数全体の9割以上を占めています。

上記の事故種別割合を全国平均〔平成30年中〕と比較してみますと、急病は、〔全国65.0%〕同じ割合になっており、一般負傷〔全国15.1%〕と交通事故〔全国7.0%〕の割合が高くなっています。

事故種別救急出動件数

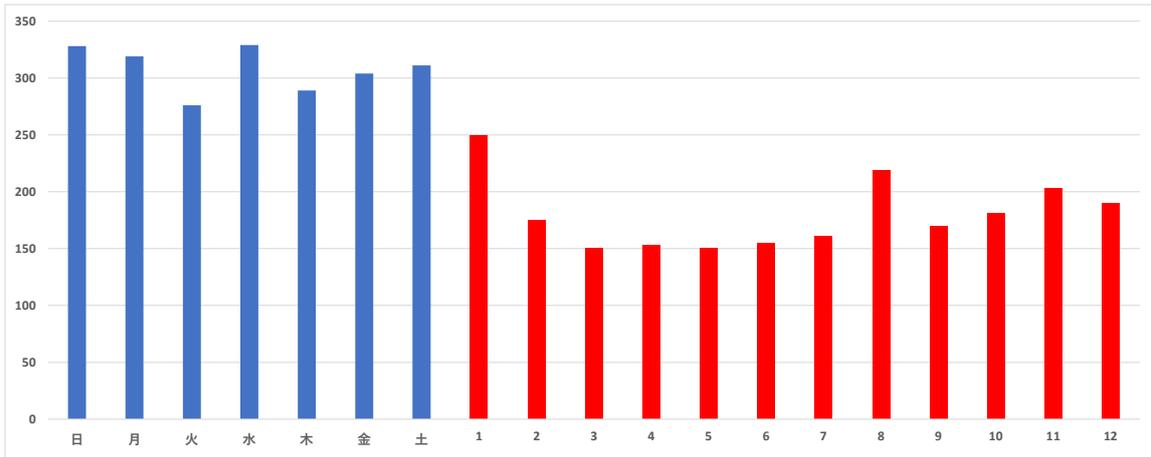


イ 曜日別出動状況及び月別出動状況（前年比） — 第2表

令和2年中の曜日別平均出動件数は、308件（35件減）であり、最も出動件数が多い曜日は、水曜日の329件となっています。

次に、月別出動状況を見ると、1ヵ月平均179件（21件減）の出動であり、最も出動件数が多かったのは1月の249件、次に8月の219件、11月の203件、12月の190件・・・の順となっています。

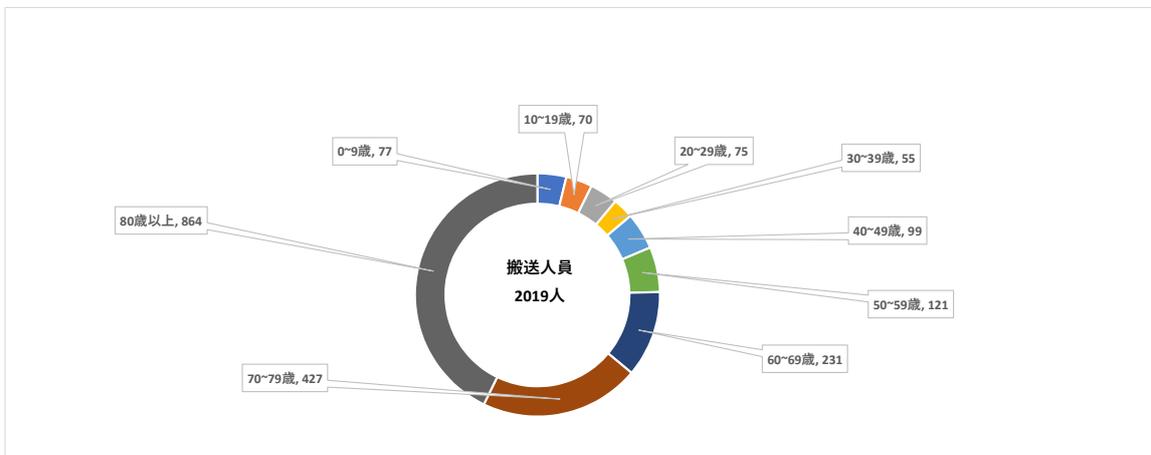
曜日別・月別救急出動件数



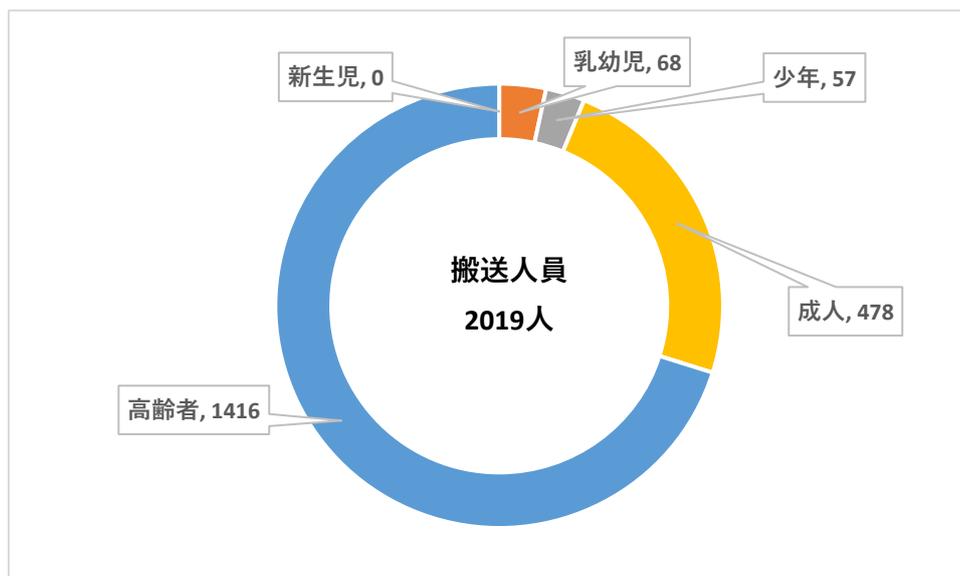
ウ 年齢別搬送人員状況（前年比） — 第3表

救急傷病者を年齢別にみると、80歳以上864人（47人減）、70歳代427人（60人減）、60歳代231人（51人減）、50歳代121人（27人減）、40歳代99人（11人減）・・・の順となっており、65歳以上の高齢者が1,416人で、全体の70.1%〔平成30年全国59.4%〕を占めています。

年齢別搬送人員



年齢区分別搬送人員



※「新生児」：生後28日未満、「乳幼児」：生後28日以上満7歳未満、
「少年」：満7歳以上満18歳未満、「成人」：満18歳以上満65歳未満
「高齢者」：満65歳以上

エ 災害弱者等の搬送状況 — 第4表

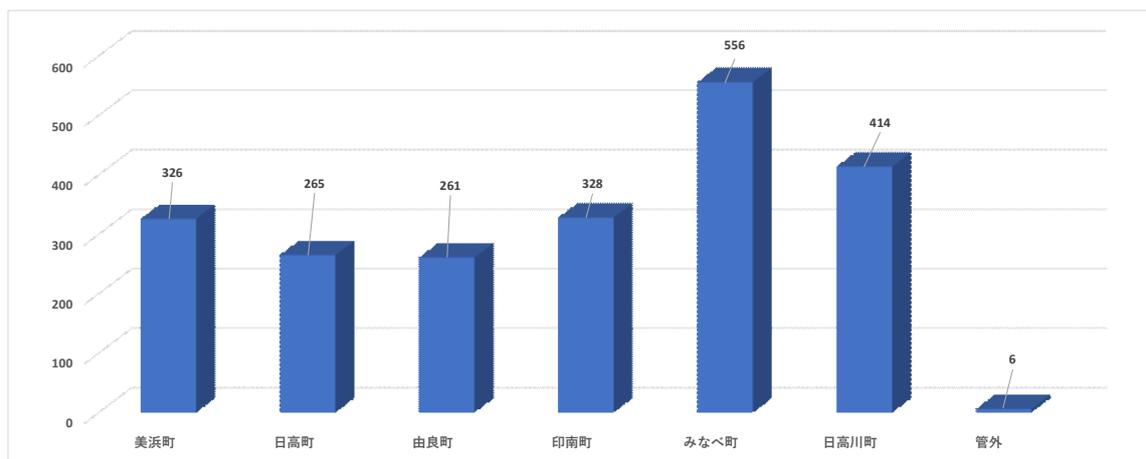
全搬送人員2,019人中764人(37.8%)が災害弱者であり、その内訳をみると独居の高齢者183人、在宅療法患者174人、認知症の高齢者147人、寝たきりの高齢者133人、精神障害者83人、身体障害者44人・・・となっています。

また、在宅療法患者の在宅療法としては、インスリン投与中の傷病者が最も多く49人となっています。

(2) 救急発生率及び利用度 — 第5表

管轄町別の救急出動件数は、みなべ町556件(25.8%)、日高川町414件(19.2%)、印南町328件(15.2%)、美浜町326件(15.1%)、日高町265件(12.3%)、由良町261件(12.1%)、管外6件(0.03%)の順となっています。

町別救急出動件数



管轄町の全搬送人員からみた救急発生率〔管内住民100人当たりの搬送人員〕は3.9人であり、同発生率から住民搬送状況を見ると、住民の約2.6人に1人が救急車を利用したことになります。

なお、救急車利用度の全国平均〔平成30年中〕が21人に1人であることから日高郡内での救急車の利用度は、全国平均より下回っています。

また、全搬送人員から救急車利用度を町別にみると、美浜町が約2.4人に1人、日高町が約3.0人に1人、由良町が約2.3人に1人、印南町が約2.6人に1人、みなべ町が約2.5人に1人、日高川町が約2.4人に1人が救急車を利用したことになります。

(3) 救急車の活動率（前年比）

ア 隊別出動状況 — 第6表

全救急隊（5隊）の1日当たりの平均出動件数は約5.9件（0.7件減）、1件当たりの活動所要時間は約74分（2分増）、走行距離は約30.5km（1.0km増）となっています。

全救急隊のうち、1日当たりの平均出動件数が最も多いのは、日高隊の約2.8件（0.2件減）で、日高隊の出動件数は、出動件数全体の約47.0%を占めています。

イ 覚知別出動状況 — 第7表

救急出動件数2,156件を覚知別にみると、消防専用電話（119番）が1,869件（固定電話485件、携帯電話880件、IP電話504件）で全体の約86.7%を占め、次いで加入電話の213件、駆付通報58件、自己覚知15件、その他1件となっています。

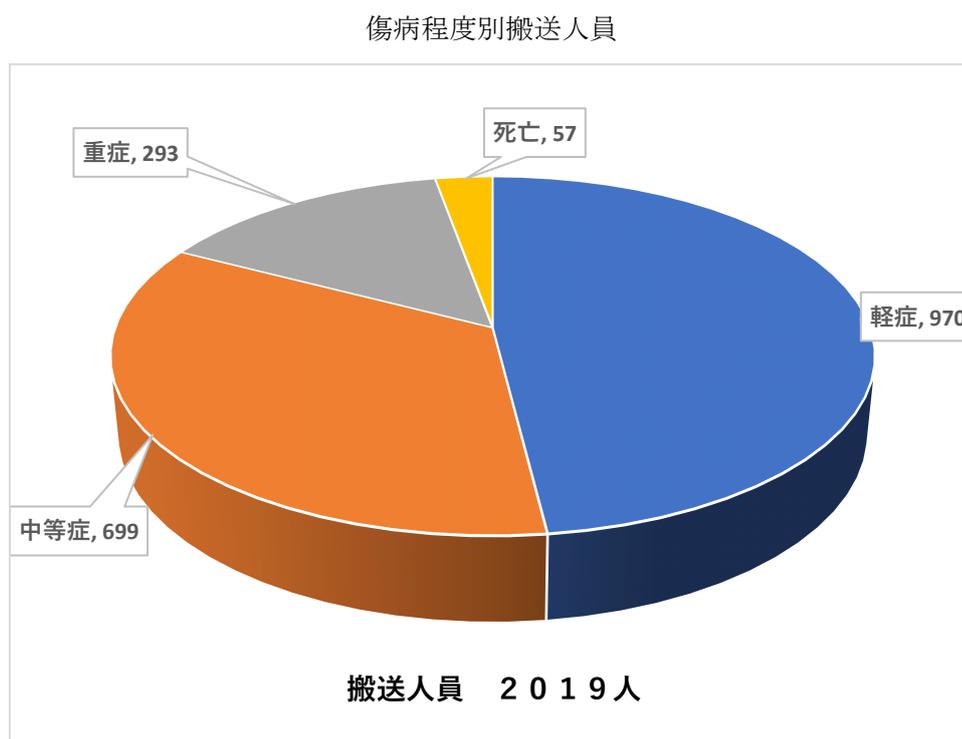
ウ 時間別出動状況 — 第8表

救急出動件数2,156件を時間別にみると、就業及び生活行動が活発化する午前8時から午後8時までの時間帯が1,514件で全体の約70.2%を占め、深夜になるほど出動件数は減少しています。

(4) 傷病程度別搬送人員の状況（前年比） — 第9表

令和2年中に搬送した2,019人について、その傷病程度をみると、入院加療を必要としない軽症患者が全体の48.0%(0.8%増)、入院加療を要するもので重症に至らない中等症患者が34.6%(3.3%減)、3週間以上の入院加療を必要とする重症患者が14.5%(2.8%増)、死亡が2.9%(0.3%減)となっています。

この割合を全国平均〔平成30年中〕でみると、当消防本部では重症患者〔全国8.2%〕、死亡〔全国1.3%〕の割合が高く、軽症患者〔全国48.8%〕、中等症患者〔全国41.6%〕の割合が低くなっています。



- ※ 「死亡」：初診時において死亡が確認されたもの。
- 「重症」：傷病者の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの。
- 「中等症」：傷病者の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。
- 「軽症」：傷病者の程度が入院を必要としないもの。
- 「その他」：医師の診断がないもの及びその他の場所に搬送したもの。

(5) 事故発生箇所別搬送人員状況 — 第10表

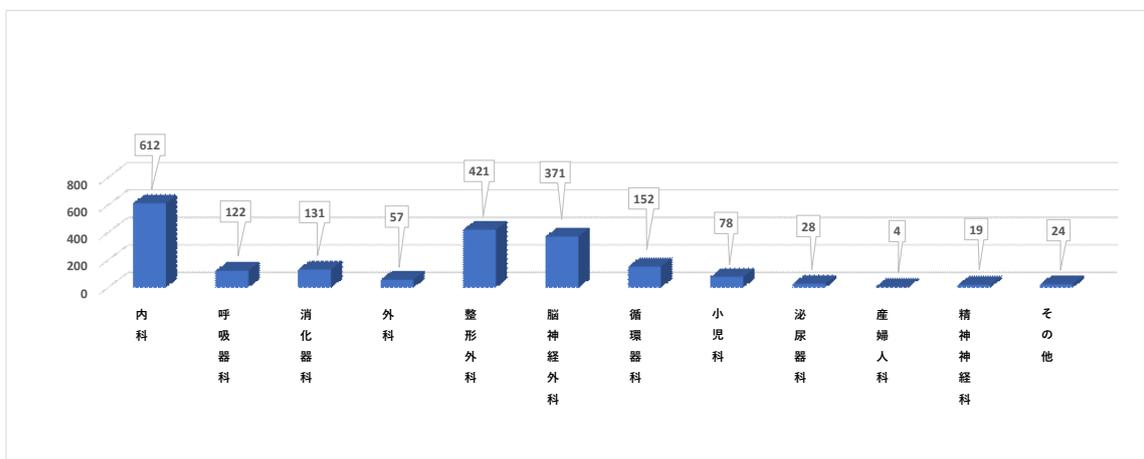
各傷病者を事故発生箇所別にみると、急病は住宅で発生したものが約76%を占め、交通事故は道路で約87%、一般負傷は住宅で約63%が発生しています。

(6) 診療科目別搬送人員及び収容状況 — 第11表

令和2年中に救急搬送した傷病者2,019人を診療科目別にみると、内科612人

(30.3%)、整形外科421人(20.8%)、脳神経外科371人(18.3%)、循環器科152人(7.5%)、消化器科131人(6.4%)、呼吸器科122人(6.0%)・・・の順となっています。

診療科目別搬送人員



3 医療機関の実態

(1) 全救急隊（5隊）の救急傷病者収容状況

ア 医療機関別 — 第12表

令和2年中に搬送した傷病者数は2,019人で、その収容状況を医療機関別にみると、第1位がひだか病院の724人(35.9%)、第2位が北出病院の518人(25.6%)、第3位が南和歌山医療センターの244人(12.1%)、第4位が紀南病院の192人(9.5%)、第5位が北裏病院の107人(5.3%)、第6位が和歌山病院の66人(3.3%)の順となっています。

なお、これら上位6病院で全傷病者の約91.7%が収容されています。

(7) 重症患者の収容状況 — 第13表

全搬送人員のうち重症患者は293人で、その収容状況をみると第1位がひだか病院の99人(33.8%)、第2位が北出病院の79人(27.0%)、第3位が南和歌山医療センターの32人(11.0%)の順となっています。

(イ) CPR実施傷病者の収容状況 — 第13表

CPR（心肺脳蘇生法をいう。以下同じ。）を実施しながら医療機関に搬送した傷病者67人の収容状況をみると、第1位がひだか病院及び北出病院の18人(26.9%)、第3位が和歌山病院の15人(22.4%)の順となっています。

イ 医療機関の所在地別収容状況 — 第12表

収容医療機関の所在地別に救急傷病者の収容状況をみると、全傷病者のうち御坊市内の医療機関に1,350人(66.9%)、田辺市内の医療機関に471人(23.3%)、管内である日高郡内の医療機関に74人(3.7%)、その他県内外医療機関

に124人（6.1%）となっています。

ウ 事故種別による収容状況 — 第14表

事故種別からみて救急件数の多い急病、一般負傷及び交通事故について、それぞれの種別ごとに救急傷病者の医療機関収容状況をみると次のようになります。

(ア) 急病の場合は、第1位がひだか病院の40.4%、第2位が北出病院の25.2%、第3位が南和歌山医療センターの11.4%の順であり、これら上位3病院によって全急病傷病者の約77.0%が収容されています。

(イ) 一般負傷の場合は、第1位が北出病院の30.7%、第2位がひだか病院の28.2%、第3位が北裏病院の13.1%の順であり、これら上位3病院によって全一般負傷傷病者の約72.0%が収容されています。

(ウ) 交通事故の場合は、第1位が北出病院の26.5%、第2位が北裏病院の24.1%、第3位がひだか病院の22.9%の順であり、これら上位3病院によって交通事故傷病者の約73.5%が収容されています。

(2) 転送搬送状況（前年比） — 第15表

令和2年中の転送搬送件数（処置困難等の理由により、第一次搬送先医療機関で収容できないため、他の医療機関へ搬送すること。）は17件（1件増）であり、転送理由は、処置困難が14件（82.3%）、その他が2件（11.8%）、専門外が1件（5.9%）となっています。

(3) 医療機関への収容依頼回数状況 — 第16表

医療機関への収容依頼回数は、平均1.3回であり、これは傷病者1人を収容するのに、平均1.3カ所の医療機関にしか収容依頼を行っていないことを意味するもので、この数字は、御坊・田辺両医療圏の救急体制の充実ぶりを反映したものとと言えます。

4 救急隊による応急処置の状況 — 第17表

令和2年中の搬送人員2,019人のうち、救急隊員が応急処置を行った救急傷病者は、2,018人（搬送人員の約99.9%）です。

救急処置の内容は血中酸素飽和度測定が最も多く1,952件、次いで血圧測定1,922件、心電図測定1,887件、心音・呼吸音聴取1,227件、酸素吸入492件、保温425件・・・の順となっています。（不搬送を除く。）

なお、全搬送人員2,019人のうち67人に対してCPCRを実施しています。

次に、応急処置の実施率について全国平均（平成30年中）と比較してみると、全国が97.9%であり、当消防本部の実施率は、全国の実施率を上回っています。

5 救命の実態 — 第18-1表～第18-4表

(1) CPA傷病者及びCPCR傷病者発生状況

令和2年中のCPA傷病者（CPA傷病者とは、心臓機能の機械的な活動の停止が認められる傷病者をいい、一時的に心肺機能停止状態であったと推測されるが、救急隊到着時には心拍又は呼吸若しくはその両方が再開していた事例を含む。ただし、本調査

では呼吸停止のみ及び不搬送の傷病者は含めない。以下同じ。)は69人であり、令和元年中のCPA傷病者85人に比べ16人の減少となっており、全救急搬送傷病者に占める割合は3.4%で、過去3年間(平成29年から令和元年)の平均(4.4%)と比べ1.0%減少しています。

CPA傷病者69人のうち、救急隊がCPCR(胸骨圧迫及び人工呼吸)を施した傷病者は67人(全CPA傷病者の97.1%、全救急搬送傷病者の3.3%)となっています。

(2) CPCR傷病者の年齢別発生状況

CPCR傷病者を年齢別にみると、65歳以上の高齢者(60人)が全体(67人)の89.6%を占めており、CPCR傷病者の高齢者比率が高いといえます。

(3) CPCR傷病者の蘇生及び救命状況

CPCR傷病者67人のうち、蘇生(24時間以上入院した者)に成功したのは4人(蘇生率6.0%)となっています。

(4) CPCR傷病者の死因別状況

CPCR傷病者の死因(医師の診断に基づく。)をみると、心疾患によるもの(33人)が全CPCR傷病者(67人)の49.2%を占めており、次にその他(14人)20.9%、外傷損傷(5人)7.5%の順となっています。

(5) 救急隊のCPCR着手までの時間

覚知から、救急隊がCPCRに着手するまでの時間は、10分から15分未満が23人(34.3%)、15分から20分未満が18人(26.9%)、20分から25分未満が13人(19.4%)、5分から10分未満が6人(9.0%)、30分から35分未満が2人(3.0%)、35分から40分未満が2人(3.0%)、5分未満が1人(1.5%)、25分から30分未満が1人(1.5%)、50分から60分未満が1人(1.5%)の順となっています。

(6) バイスタンダーによる救命手当の実施状況

CPA傷病者69人のうち、バイスタンダーにより人工呼吸、胸骨圧迫のいずれか一方、その両方またはAEDによる除細動が実施されていたものは40件(58.0%)となっています。

このうち、胸骨圧迫と人工呼吸の両方が実施されていたもの2件(2.9%)、胸骨圧迫のみ実施されていたもの38件(55.1%)、人工呼吸のみ実施されたもの0件(0.0%)、AEDによる除細動が実施されたもの0件(0.0%)でした。

(7) 救急隊別バイスタンダーCPCR実施状況と蘇生等の状況

救急隊別にバイスタンダーによるCPCR実施状況をみると、すべて救急救命士が救急車に乗車しており、心拍又は呼吸若しくはその両方が再開した傷病者(一時的に心肺機能停止状態であったと推測されるが、バイスタンダーの救命手当により、救急隊到着時には心拍又は呼吸若しくはその両方が再開した傷病者1人を含む。)は、13人(バイスタンダーによる救命手当ありが6人、救命手当なしが7人)、30日以上生存者及び社会復帰者は0人となっています。

6 救急救命士の活動状況

令和2年中における救急救命士が実施した特定行為（重度傷病者のうち、心肺機能停止状態の傷病者に対して、救急救命士が医師の具体的な指示に基づき実施した救命処置をいう。以下同じ。）は、救急隊員によりCPCRが施され、かつ、医療機関に収容された傷病者67人全員に対して実施されており、気道確保は64人（気管挿管3人及び食道閉鎖式エアウェイ61人 ※1人の傷病者に対して食道閉鎖式エアウェイ使用後に気管挿管に切り替えたものあり。）、静脈路確保は60人（うち薬剤投与22人）、除細動は6人に実施しています。

心肺停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液（ショックに伴う輸液）は14人に、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与は3人に実施しています。

救急救命士の活動状況については、以下のとおりです。

(1) 出動状況

救 急 隊 別	出 動 件 数	搬 送 人 員
全 救 急 隊 (A)	2, 1 5 6 件	2, 0 1 9 人
救 急 救 命 士 乗 車 隊 (B)	2, 1 5 4 件	2, 0 1 7 人
救命士乗車比率 [(B)/(A)]	9 9 . 9 %	9 9 . 9 %

(2) 特定行為の実施状況

特 定 行 為	実 施 件 数	実 施 人 員
気 道 確 保	65件	64人 (食道閉鎖式エアウェイ 61人) (気管挿管 3人)
静 脈 路 確 保	60件	60人
心 肺 停 止	43件	43人 (薬剤投与 22人)
心 肺 停 止 前	17件	14人 (ショックに伴う輸液 14人) ----- 3人 (ブドウ糖投与 3人)
除 細 動	6件	6人

※ 気道確保については、1人の傷病者に対して食道閉鎖式エアウェイ使用後に気管挿管に切り替えたもの。

(3) 事故種別特定行為実施状況

特 定 行 為	事 故 種 別						合 計
	急 病	交 通	一 般	自 損	水 難	そ の 他	
気 道 確 保	51	2	5	3	1	3	65
静 脈 路 確 保	50	1	4	2		3	60
シ ョ ッ ク	11	1	2				14
ブ ド ウ 糖	3						3
除 細 動	6						6

(4) 指示病院からの具体的指示の状況

救急救命士が特定行為を実施するのに際し、指示病院から受けた具体的指示の状況は、

次表のとおりです。

指示病院名	指 示 病 院 選 定 理 由					合 計 (%)
	かかりつけ	原因疾患	指示輪番	外 傷	その他	
ひだか病院	10		6	3	11	30 (25.2%)
和歌山病院	4	1	8		6	19 (16.0%)
北出病院	5		19		16	40 (33.7%)
北裏病院			5		1	6 (5.0%)
紀南病院					12	12 (10.0%)
南和歌山					10	10 (8.4%)
そ の 他					2	2 (1.7%)
合 計 (%)	19 (16.0%)	1 (0.1%)	38 (31.9%)	3 (2.5%)	58 (49.5%)	119 (100%)

※ 包括的指示1件（除細動）

7 住民指導等

(1) 上級救命講習の実施状況 — 第19表

当消防本部では、平成8年6月から実施している普通救命講習の修了者を対象に実施しており、総受講者数は472人となっています。

(2) 普通救命講習Ⅱの実施状況 — 第20表・第21表

業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心肺停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定されている者を対象とする普通救命講習Ⅱを平成17年から実施し、総受講者数は117人となっています。

(3) 普通救命講習Ⅰの実施状況 — 第22表～第26表

令和2年中において普通救命講習Ⅰを17回実施し、94人が受講しました。

なお、受講者の年齢層は、10歳代が49人（52.1%）と最も多く、次に40歳代の12人（12.8%）、20歳代の11人（11.7%）、50歳代の10人

(10.6%)、30歳代の9人(9.6%)、65歳以上の2人(2.1%)、60歳～64歳の1人(1.1%)となっています。

また、男女別では、男性が63人(67.0%)、女性が31人(33.0%)となっています。

次に、受講者を職業別にみると、学校関係者が51人(54.3%)、役場職員関係が18人(19.1%)、各種事業所関係者が13人(13.8%)、消防団関係が7人(7.4%)・・・となっています。

普通救命再講習は4回実施し、30人が受講しています。

(4) 一般講習〔救急講習〕 — 第27表

令和2年中において管内各地で行った救急講習会は20回で、233人に対して心肺蘇生法等の指導を行っています。